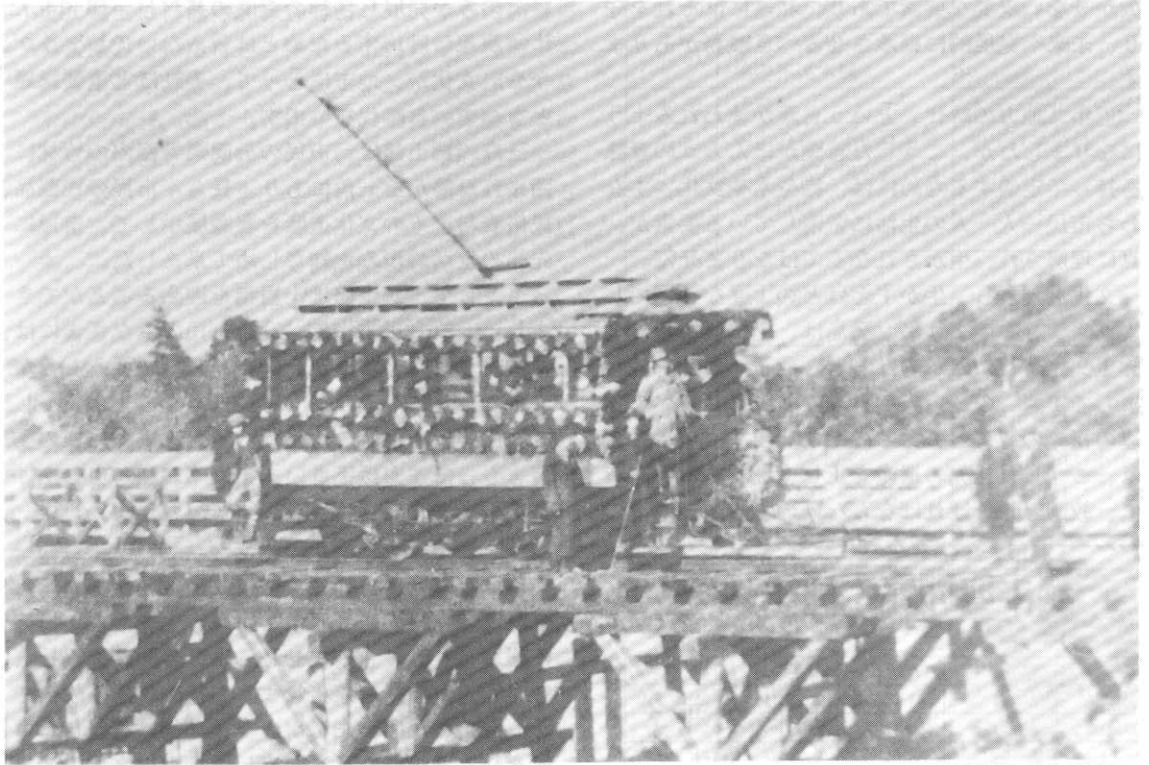


郷土館だより

Vol. IV No. 1

1981. 8. 1



三島・沼津間に電車が開通(明治39年10月)

目次

開館10周年に寄せて……………	1
郷土館開館10周年の歩み……………	2
テーマ展、三島明治史年表……………	3・4
資料紹介……………	5
行事報告……………	6
寄贈資料紹介・おしらせ・その他……………	7

郷土館開館十周年に寄せて



三島市長

奥田吉郎

わがまち三島は、緑のまち、水のまち、文化のまちです。いずれも平和で健康的な市民生活には欠かせない重要な要素であり、私達にはそれを守り、未来へ発展的に継承させるべき義務があります。

近年「地方の時代」という言葉が使われるようになりましたが、こうした言葉がほんとうの意味を持って定着するためには、緑や水や文化、すなわち市民一人一人の生活に密着している要素が、真に理解され、生かされなくてはなりません。

文化を理解し、生かすとはどのようなことでしょうか。ご存知のように、三島は、箱根西麓の縄文・弥生文化時代にさかのぼると、数千年の時を経たまちです。この長い人の営みの歴史は、すべて私達の祖先の智恵と努力の賜です。現在に生きる者は、こうした祖先の遺産を正しく理解すると同時に、教訓としなければならないのです。

郷土館を開設して、今年には十周年にあたります。思えば、設立当初の精神は「地方文化の振興に寄与」するためでありましたが、十年後の現在でも、この初心にいささかの変わりはありません。むしろ、郷土館の役割は、いよいよ重要性を増したと言えましょう。

今、全国の各市町村において、郷土館のような地方博物館の建設計画が多数進められています。こうした状況は単なるブームとは言い切れない、経済のみが発展し精神の荒廃の甚だしい切迫した社会現象に呼応するためとは言えないでしょうか。今や、文化が、地方にとって、それほど重要課題となっている時代なのです。

三島の郷土館は、市民の公園楽寿園内の竹林に囲まれた静かな一角にあり、長らく市民の民芸品、民俗資料、その文化遺産を収蔵展示して、市民に先祖の生活の歩みを知らしめてきました。

こうして、郷土館は十周年を迎えることができました。設立以来十年、三島市民のみならず、常に暖かい眼とご支援を賜わり今日に至ることができたことに対し、深く感謝申し上げます。そして当館の次の飛躍に対しても、これまで同様の愛情をもってご支援下さいますようお願い申し上げます。次第です。

郷土館開館十周年に際して



三島市教育長

伊東文平

湧水も多くなり、楽寿園の緑も一層濃くなったこの頃、郷土館だよりを皆様にお届けします。

郷土館も今年の10月で開館10周年を迎えます。入館者数も今年末まで100万人に達するみこみであり誠に喜ばしい限りです。

これもひとえに市民の皆様のご協力の賜だと思います。郷土館は郷土資料の収集、保管、展示、資料に関する調査研究、数々の講演会や研究会等の開催、それに郷土館だより、三島小誌や昔話等の出版物の刊行を長谷川館長を中心に努力して参りました。皆様と共にこの十年の成長を祝福いたします。

然るところ、今回六月末で長谷川館長は契約期限も終わり、ご本人のご都合で退任されました。

先生は特に郷土史や古文書に精通され皆様に惜しまれて居ります。健康にご留意の上今後もご研究の程お祈りして止みません。当分の間は高橋社会教育課長が館長を兼務します。特に盗難事故等でご心配をおかけしましたので、今後はこうした事故を防ぐ施設や人員も充実し、貴重な文化遺産を保存し、郷土理解を深めるために役立たせるといふ郷土館の重要な使命達成のために、館員一同一層頑張る所存です。

お陰様で本郷土館は、県東部地域の博物館として中心的な役割をはたしてきました。この十年の努力を大切にして、その上にこれからの歴史を築いて参りたいと思います。一層のご指導、ご協力をお願いしてご挨拶といたします。

郷土館開館10周年の歩み

昭和46年10月に郷土館が開館してから今年はやうど満10年の年になります。ようやく10才になって、さてこれから、郷土館はより大人になって発展し、次の20周年を目指さなければなりません。

振りかえって見ればこの10年間、いろいろな行事を行なってきたものです。

講座は年間平均6回やってきました。民俗、歴史、郷土の自然等各分野にわたり、多くの先生方のご協力をいただき、今では市民のための郷土学習教室として定着しています。おかざり作り、草木染め実習、縄文土器作りなどの技術体験を伴う体験学習も、このごろは郷土館の中心的な学習会になりつつあります。昭和48年以来続いている学習会に「古文書読習会」があります。会創立以来、一貫した熱心な古文書解読の勉強会においては、多数の郷土史研究の人材を育ててきました。

市内の小・中学生のための「夏休み郷土学習会」や「映画教室」は、昭和47年から続いている行事です。当初参加してくれた小学校6年生は、今大学生や社会人になっています。郷土館では、これからも三島の子供達に、昔の三島を知ってもらい、正しい郷土認識を持ってもらいたいと願ひ、この行事を続けたいと考えます。

以上過去10年間を簡単に振りかえってみて、少々手前味噌的な報告となってしまいましたが、こうした郷土館があるのは、ひとえに三島市民の皆様のご協力によるものです。現在のところ約1万2千点ある種々の郷土資料は、その大部分が寄贈によるものです。

また、郷土館入館者は、おそらく今年中に100万人を突破することでしょう。下記に掲載した三つの表は、郷土館10年の歩みの一部ですが、簡単にご報告すると同時に、私たちの今後への飛躍のための資料としたいものです。

保有資料数（昭和55年度まで）

資料分類 区分	人 文 科 学				自然科学	その他	計
	民 俗	歴 史	芸 術	考 古			
寄贈資料	2,500	433	3	226	120	2,340	5,622
寄託資料	271	205		154		41	671
寄託資料 (有期限)	(三島暦・ダルマ) 15	(本陣文書等) 10	(三四呂人形) 24	(国分寺瓦) 4	(化石) 29	2	84
館蔵資料	(塞の神レプリカ等) 9	(市誌史料等) 1,095	(栗原忠二) 1			(勝俣文庫) 約 4,627	5,732
計	2,795	1,743	28	384	149	7,010	12,109

開館以来開催した特別展・企画展

年 度	テ ー マ	主 要 展 示 品
昭和46	郷土の塞の神展	塞の神
〃 47	郷土の教育百年展	明治・大正の教科書
〃 48	三島宿と旅展	江戸時代の旅道具
〃 49	郷土のお祭り展	祭具
〃 50	静岡県の郷土玩具展	張子・こま・たこ
〃 50	三島市の塞の神写真展	塞の神パネル
〃 51	郷土の俳人 滝の本連水展	連水の俳画
〃 51	諸職展	大工・石工等の道具
〃 51	郷土の春の年中行事展	年中行事祭具
〃 52	佐官の名人伊豆長八展	長八の銭絵
〃 52	三島市周辺の 蝶・昆虫標本展	昆虫標本
〃 52	稲作と生活展	農耕具
〃 53	郷土の災害史展	伊豆震災 狩野川台風史料
〃 53	日本の暦展	全国地方暦 三島暦
〃 53	郷土館収蔵品展	収蔵民具等
〃 54	頼朝と郷土展	年表・史蹟パネル
〃 54	草木染めと織り展	染・織用具
〃 55	三島の道展	旅行用具 運搬用具

入館者数

年 度	学生(小中高)	一般(個人)	団体(30名以上)	年度別計
昭和46	11,079人	53,087人	3,233人	但し(46.10~47.3) 67,399人
47	50,661人	82,455人	4,317人	137,433人
48	47,086人	51,087人	(19) 1,593人	99,766人
49	55,618人	72,592人	(20) 2,067人	130,277人
50	45,583人	74,200人	(21) 2,863人	122,646人
51	48,614人	56,209人	(22) 2,309人	107,132人
52	36,660人	51,102人	(23) 1,596人	89,358人
53	30,300人	40,540人	(24) 2,924人	73,764人
54	30,978人	39,901人	(25) 3,545人	74,424人
55	21,622人	42,521人	4,501人	68,644人
区分別計・合計	378,201人	563,694人	28,948人	970,843人

郷土館特別展「明治の三島」

- 会 期 昭和56年10月1日～11月30日
- 会 場 三島市郷土館
- 入館料 無料（但し、楽寿園入園は有料）
- 開催主旨

「明治は遠く・・・」ということをししばし耳にするが、ほんとうだろうか。

今から100年そこそこ以前の時代である明治が、急速な現代文明の流れに押しやられ、忘れ去られようとしているならば、それは現代にとって不幸な損失であると言えるであろう。

今回の企画では、三島やその周辺に多く残っている明治資料を収集、調査し、展示することによって、われわれのふる里を再現してみたい。

明治の先輩たちが、後世に残してくれた遺産の中から、現代の社会を反省する材料が、数多く発見できるのではなかろうか。

●展示内容

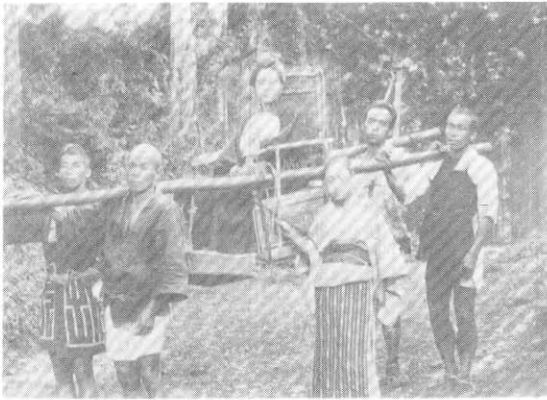
- A. 明治の三島
明治の商家、明治の農家
- B. 郷土の人物
吉原守拙、花島兵右衛門、矢田部盛治
- C. 明治の学校
教科書、子供のおもちゃ、卒業証書
- D. 明治時代の風俗



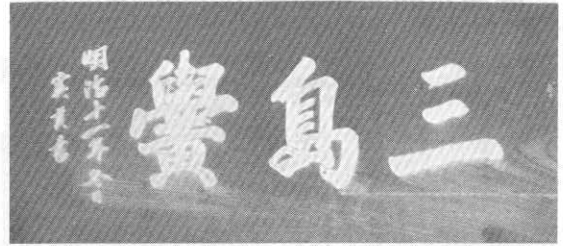
開心^{しんしん}痒舎（明治5年開校）の初代校長、吉原守拙

三島明治史年表

年 月 日	元、 六、二八	四、 二、一四 五、 七、一四	五、 四、 八、 五、 九、 一、二	六、 九、 一、 九	七、 二	九、 四、 一八	一〇、 二、 三、 三、 一、二	一三、 五、 一六	一四、 一、 一〇、 五	一六、 一〇、 五	一七、 七、 一
事	葦山県置かれ、江川太郎左衛門英武参事となる。県庁葦山に置かる。	葦山県足柄県に合併さる。県庁小田原、葦山は支庁となる。	三島郵便局開局。当時としては早かった。（沼津・静岡へ集配する） 麻瀬置県（一一、二二、三府七二県設けらる。） 三島大社官幣大社に列せらる。（祭神事代主命となる。）	戸長制度発足 足柄県第四大区（君沢郡）第一小区（三島宿）となる。	大陽曆採用 三島曆の発行六年以降禁止さる。 学制頒布 開心痒舎を小学校に切り替える。 開心痒舎 久保町開屋場に設けられる舎主・吉原守拙 第四大区長・小川宗助（塚本）第一小副区長・世古六太夫	勤有学校（社家・北上・錦田地区）中郷学校（中郷地区）開校さる。	伊豆国小学校教員講習所葦山に設けられる。（葦山中の前身）	この頃養和病院（瀬尾元経営）営業さる。病院の最初である。	馬車の営業開始さる。大社前・大場間 但し不定期	伊豆銀行三島に開店 銀行の最初（静銀）	私立学校中権精舎（田町）建つ。（吉原呼我）三島における中等教育の最初。
頃							この頃養和病院（瀬尾元経営）営業さる。病院の最初である。	この年遊病舎が辰巳町に建つ。 馬車の営業開始さる。大社前・大場間 但し不定期	教育会規則告示さる。これより各地に結成さる。	私立学校中権精舎（田町）建つ。（吉原呼我）三島における中等教育の最初。	戸長官選となり戸長役場設けらる。（久保町電話局北）戸長・河辺幸兵衛



外国人に利用された乗り物。チェアと呼ばれた。



明治12年開校の三島聾の扁額



グラント将軍の肖像

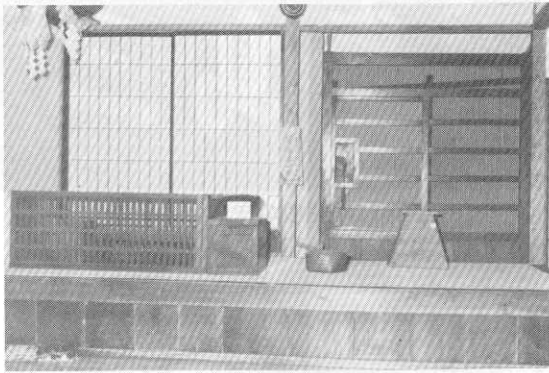


薔花女学校生徒の服装

一八、二、	一九、四	二〇、一、	二一、六、一五	二二、二、一	二三、二、二六	二四、七、一	二五、二、二六	二六、三、六、	二七、二、	二八、四、六、九、一	二九、五、二〇	三〇、六、一五	三一、三、八	三二、三、二五	三三、七、二四	三四、四、九	三五、三、一〇、一	三六、六、二〇	三七、	三八、一、二六	
国有鉄道東海道線測量始まる。(三島は箱根山通過の運動をする。)	この年宮倉において乳牛の飼育始まる。(花島兵右衛門)	君沢田方郡役所を三島宿御殿地(五光のあたり)に新築移転。石がきが残っている。	君沢田方郡公立高等小学校を三島に設立。(二十一年仙台に新校舎を建つ。)	バラ女学校開設(花島兵右衛門) 静岡県最初の私立女学校	国府津、沼津間鉄道開通(一日二往復) (一説に依ると静岡県国府津間である。)	市町村制により三島町・北上村・錦田村・中郷村設置さる。	三島町立幼稚園開設さる。	東海道全線(新橋・神戸間)開通、箱根越えの旅人はとどなくなる。	三島町立幼稚園開設さる。	この年小松宮別邸設けらる。(楽寿園)	この年小松宮別邸設けらる。(楽寿園)	この年煉乳製造工場設けらる。(花島兵右衛門)	この年公設消防編制さる。	三島に製糸工場設立さる。(河島製糸場)	三島に製糸工場設立さる。(河島製糸場)	この年煉乳製造工場設けらる。(花島兵右衛門)	この年公設消防編制さる。	この年小松宮別邸設けらる。(楽寿園)	この年煉乳製造工場設けらる。(花島兵右衛門)	この年公設消防編制さる。	この年小松宮別邸設けらる。(楽寿園)

資料紹介 (館藏品)

■ 展示品見学の手引 一 商家



郷土館 2 階の商家模型

「商家で毎日用いる商業用具について考えてみましょう。取引の状況をはっきり記入していく帳簿類には、大福帳・買掛帳・金銭出入帳・判取帳・注文帳・荷物渡帳などがあります。金銭を出し入れするには銭箱があり、銭を受け渡しする際に用いる皿型の銭鉢や、金銭を計算するための金枡などもありました。帳付けをしたり、金銭の出し入れをする帳場を仕切るために、帳場格子を用いました。帳場格子は折りたたんで移動できるようになっていて、簡単な片袖折りの二枚物と、両袖折りの三枚物とに区別されます。」

東海道屈指の宿場町として繁栄してきた三島は、明治になり鉄道が開設されると、それまでの箱根徒歩越えの旅人数が極端に減少し、自然はたごは商売替えをしなければなりません。

明治29年の「三島雑記」には、大社前の市ヶ原通りや東海道沿いの久保町・伝馬町・大中鳴・小中鳴などの商家が一覧されています。これら商家の中には、はたごから改業したり、あるいは新しく店を構えたりという種々の人々が居ました。いわば新しい三島の発展の基礎になった商家群と言えます。

各商家は通りに面して軒を連ね、上記写真の商家構えのように店を出し、さまざまな物を扱っていたことでしょう。

明治29年、三島町商家一覧 (三島雑記による)

商 種	商店名(屋号)	店 主	旧 町 名
呉服商	綿屋 文	蛭海文平	市ヶ原
"	佐原 屋	小 林 喜三郎	久保市ヶ原
"	伊勢 彦	久保 善兵衛	久市ヶ原
雑紙商	伊勢 善	久市 助	久市ヶ原
小問物・袋物店	木河 島	平河 尾 善兵衛	"
計物店	和紀 泉	朝日 島 新兵衛	市ヶ原
洋旅	相大 模	堀尾 民八郎	市中
"	松大 和	石立 井 幸兵衛	小中
"	松大 和	加佐 藤 善兵衛	伝馬
"	松大 和	小早川 半右衛門	大中
割烹店	富瀬 島	富瀬 丑太郎	"
"	富瀬 島	瀬川 半右衛門	宮田
肉店	富瀬 島	中山 崎八郎	小中
食料店	岩崎 商	山崎 新助	久茶
新聞取	北田 製	北田 井 豊吉	市ヶ原
刷林	三島 活	朝野 日 正三郎	久市ヶ原
"	三島 活	朝野 日 留次郎	久市ヶ原
薬舗	文資 丸	大山 河本 寛之助	久市ヶ原
量衡器	錦石 津	河本 喜兵衛	久市ヶ原
乾酒造	五多 油	川根 萬兵衛	久市ヶ原
"	山口 口	大波 多野 重次郎	久市ヶ原
"	山口 口	山口 幸次郎	久市ヶ原
劇場	近長 中萬	中河 高直 井 豊太郎	市中
古着店	"	河高直 井 豊太郎	久市ヶ原
漆器店	"	河高直 井 豊太郎	久市ヶ原
漆器・荒物	村伊 上	村 上 八	久市ヶ原
洋物・和洋馬具	山常 小村 菊	田 西 上 間	久市ヶ原
"	"	"	久市ヶ原
"	"	"	久市ヶ原
薬劑	"	"	久市ヶ原
金足	柿田 屋 利	田 沢 田	久市ヶ原
"	三野 荒 小奥	沼村 常七	久市ヶ原
荒物・油	"	"	久市ヶ原
骨董	藤池 商	一 藤 木 長平	宮田
"	河内 豆	内 田 山 喜太郎	伝馬
米穀・肥料	"	"	久市ヶ原
"	"	"	久市ヶ原

～体験講座「手作りおもちゃ講習会」～

56年5月24日(日)参加者 32名(小学6年生)
会場 郷土館会議室 講師 郷土館職員

素朴な中に工夫が生かされている、伝承おもちゃの製作を自分の手でこなすことによって、じょうずにはできなくても満足感は得られたと思う。今回は紙鉄砲と風ぐるまと竹トンボの3種であったが、すこし多過ぎた感があった。限られた時間の中では、ひとつにしぼっても良かったのかも…。(紙鉄砲)

新聞紙を口の中で、くちやくちやくとよくかんでまるめ、弾丸を作った。まず竹筒に詰め込む。次に同じように、もうひとつの弾丸を詰め込んで、勢いよく押し棒を突き出すと、圧迫された空気の流れで、先に詰め込んだ「新聞紙の弾丸」が「パーン！」と飛び出した。文政十三年刊の『嬉遊笑覧』にも記されている古い時代からの遊びだ。

行事報告

～近在史跡めぐり

「近在社寺の宝物を訪ねて」～

56年6月16日(火)参加者 27名(一般市民)
(コース) 三島市役所広場→(市マイクロバス)→妙法華寺→(市マイクロバス)→三嶋大社

ただ、ただ晴れて欲しい。そんな願いで、当日の朝目覚めて見上げた空が、太陽の光で輝いていました。良かった。梅雨の季節の中休みの晴空。妙法華寺の方からは、重要文化財等の宝物が多くあるので、雨の場合には宝物館の拝観はできないと断られていました。参加者の願いの強さを仏陀が聞いてくれたのでしょうか。寺側の親切な説明と湯茶の接待を受けた後、三嶋大社へ向かいました。大社では宝物館の説明を権禰宜の鳥居松彦氏にいただき、参加者一同その名説明に酔いました。御本殿の彫刻は大社宮司の渡辺清次郎氏にいただきました。宮司自からその説明役を買って出る事は異例の事だとうかがい、大社側の御好意に大感激し、感謝の気持で一杯になりました。妙法華寺と三嶋大社の皆様のあたたかい気持のおかげで、今回の市内史跡めぐりの参加者一同、有意義に、又元気一杯行事を終える事ができました。「ありがとうございました」の言葉を添えて、報告とします。

昭和56年度第1回古老に聞く会

(日時 6月18日、会場 山田公民館)

本年度第1回の「古老に聞く会」を市内山田地区にて行なった。11名という多くの話者を集っていただき、山田の地名の由来話に始まり葬式・祝言習俗などの貴重なお話を聞くことができた。会の詳細な内容については、後刊郷土館だより等で追ってご報告するとして、ここではこの会における参加者の皆さんをご紹介しておきたい。

会に出席して下さった山田地区のみなさん。

氏名	年令	氏名	年令	氏名	年令
宮崎幸男さん	78才	加藤福男さん	69才	杉本なつさん	75才
杉本宗作さん	74才	杉本邦彦さん	66才	小沼ゆきさん	75才
杉本範雄さん	74才	杉本 勝さん	66才	遠藤愛子さん	70才
山本隆作さん	72才	坂本ヒデさん	77才		



シリーズ講座「明治の三島(教育)」

6月20日(土)午後、郷土館会議室において高橋敏先生(県立富士東高教諭)を講師にお招きして開催した。聴講者30名の盛大な会となり、充実した内容の講座となった。次回は7月18日(土)に「明治の風俗」を開く予定となっている。

講義ノートより

明治の教育は、明治5年に制定された学制によって、近代教育の始まりを見ることができる。鎖国封建体制によって、先進列強諸国から大きく遅れをとったことを知った明治政府は、教育によって少しでもその差を縮小することに必死であった。

わが三島においては、明治5年5月21日、久保町旧伝馬所(現在の郵便局あたり)を校舎として「三島巖」が開校した。次第に教育に対する関心も高まり、明治12年8月15日には、田町に、グラント玄関を持つ洋風校舎が完成したのであった。

因みに明治8年の三島町の人口は5,010人で、学令人口、708人であるのに対し、就学生員は193人(男104人、女89人)であった。

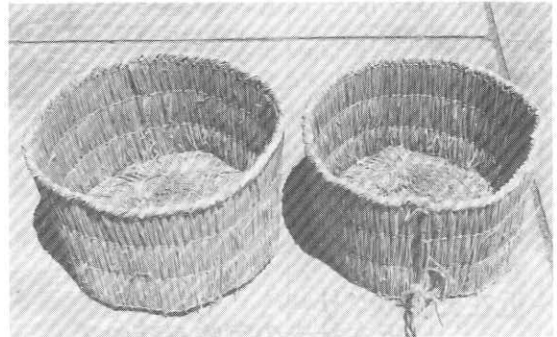
■収集資料紹介■ (採集、寄贈による) (S56.4.1~6.30)

採集日	提供者	住所	資料	点数
56. 4. 9	奥野 豊	市内長伏37-5	東海便覧図略コピー	1点
" 4. 10	中野 藤吾	東京都立川市栄町3-17	丹那トンネル開通記念資料	4 "
" 4. 12	郷土館採集		龍爪札	6 "
" 4. 21	佐野 醇	市内中田町12-2	勅諭(箱入り)	2 "
" 5. 10	内橋 復丸	越谷市下間久里	田方郡三島町形勢一斑コピー	2 "
" 5. 24	望月 正敏	市内大場	カツギダワラ	1対
" 6. 2	山本 安博	市内一番町2-34	発句集、扇面	2点
" 6. 23	小野 智義	市内寿町5-28	机、文箱、煙草盆、ソロバン、外	7 "
" 6. 26	社会教育課採集		伊豆国分寺瓦片	8 "
" 6. 30	根岸 とく子	市内大宮町3丁目	消しツボ	1 "
" 7. 1	片山 満	市内広小路町7-13	カベラグワ	1 "

藁の民具 (カツギダワラ)

稲藁は、日本人の主食である米を収穫した後においても有効に利用された。祖先たちは藁一束たりとも無駄にはしなかった。牛馬の飼料、そして藁で作ったさまざまな民具など、数えあげれば、限らない藁の利用の文化史が展望できるであろう。

市内大場の望月正敏さんから、一対のカツギダワラを寄贈していただいた。これは全国的に見られる藁の民具の典型とも言える物であろう。望月さん宅では、茶摘み用の入れ物として使用されていたが、県下では、イジコ、イチッコなどの名称で、天びん棒で担ぐ堆肥運搬用の道具として、広く使用されているようだ。



利用案内

休館日 毎月第1月曜・12月27日～1月2日
 開館時間 午前9時～午後4時30分
 入場無料 (但し、楽寿園入園の際、有料)

★★★★★★おしらせ★★★★★★

■郷土館の行事予定■

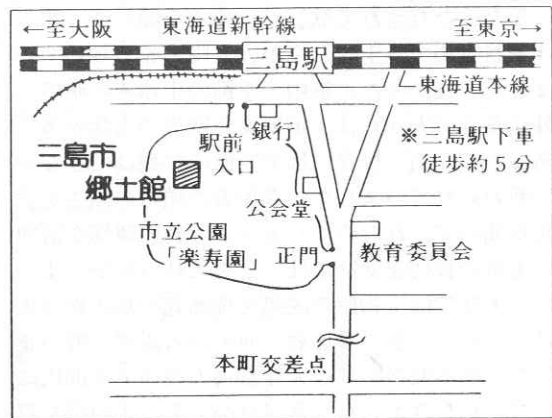
- 8月1日(土)～8月7日(金) 夏の映画教室
- 9月19日(土) シリーズ講座「明治の三島」交通-
- 10月1日(木)～11月30日(月) 特別展「明治の三島」
- 10月18日(日) 体験講座 「染と織」
- 11月1, 8, 22, 29日(いずれも日曜)
少年教室「縄文土器作り」中学生対象に4日間
- 11月7日(土) 特別講演会

開館10周年にあたって

市制施行40周年を迎え、益々発展途上にある歴史のまち三島に先代の遺産を正しく理解していただくために郷土館が建設されて以来10年を迎えました。

10年ひと昔といいますが、この10年を一節として今後は施設の管理、運営を円滑に進めると同時に、十分な機能を発揮させるに管理、運営組織を確立させ、来館者に親しまれるまた学習の場としての体制づくりに専心努力したいと思います。

社会教育課長(郷土館長) 高橋 進



郷土館だより No.10

昭和56年8月1日発行
(年3回発行)

編集 三島市 郷土館
 住所 〒411 三島市一番町19-3
 TEL.0559-71-8228
 発行 三島市教育委員会